

第三部理工系博士人材育成分科会（第26期・第2回/WG第6回） 議事要旨

日時： 2025年7月22日（火） 17:00-18:00

場所： ウェブ会議

出席者： 伊藤由佳理、沖大幹、奥村幸子、尾崎由紀子、三瓶政一、下田吉之、関谷毅、高木周、田村圭子、常行真司、堀利栄、宮崎恵子、関根千津

欠席者： 内田誠一、北川尚美、岸村顕広

（敬称略）

1. 議事要旨の委員長一任について（資料2、参考資料1 参照）
 - 議事要旨は案を作成後、出席者に内容を確認し、その後の提出等の扱いは委員長に一任することを承認した。
 - 前回議事要旨は修正意見がなかったので確定した。
2. 分科会委員間のメールアドレス共有について（確認事項）
 - 分科会内でメールアドレスを共有することを承認した。
3. 分科会役員（幹事）選出
 - 関根委員と内田委員の幹事就任が提案され、承認された。
4. 検討課題について（資料3-1、3-2、参考資料2 参照）

各項目について議論・意見交換を行った。概要は以下のとおり。

 - ① 公的支援の在り方
 - 優れたプログラムは長期継続が重要。研究テーマごとの学生支援件数・額の拡充が望ましい。
 - 採択時期は改善の余地がある。
 - ② 学生側の意識
 - 長期的スキルの意味は教員が伝える必要がある。
 - 学生が企業と個別に接点をもつ機会は限られるので、博士人材と企業との接点（学会活用、フォーラム開催）を大学間で協力して確保・情報共有することが有効。
 - ③ 大学・アカデミア側の意識
 - 博士学生を「学生扱い」せず、社会人として扱う仕組みづくりが有効。共同研究者として意識醸成するなど。
 - 博士の価値（課題抽出・設定・方法策定・研究実施能力）を社会に発信する。
 - 若手研究者の任期なしポストの拡大。
 - ④ 企業側の意識
 - 大企業では学位取得とキャリア形成を連動させる事例がある。
 - 社会人博士進学は若手技術者の能力強化に有効。
 - 経営陣に博士人材とは（単なる専門家ではなく）課題を整理し解決策を提案しまとめる訓練を受けた人材であるという理解を深めてもらう。
5. レポート・シンポジウムについて（参考資料3＝前回資料3 参照）
 - 委員長が目次案にこれまでの意見を箇条書きで記入したレポートのたたき台を作成

し、次回検討する。

- 上記資料を夏季部会（8/7-8）にも提出予定。
- シンポジウムについて次回も検討する。

6. その他

次回の日程調整は 8 月後半～ 9 月前半に行う。

以上

関根 記